

すこしくわしい 女性の不妊治療のはなし

不妊治療には様々な検査と、段階的な治療があります。主治医と相談をしながら、不妊の原因を調べるための検査や、それぞれの女性にあった治療を行います。不妊治療をこれから行うか迷っている方も、現在治療中の方も、正しい知識を持ち、見通しを持って臨めるように、検査・治療についてまとめました。

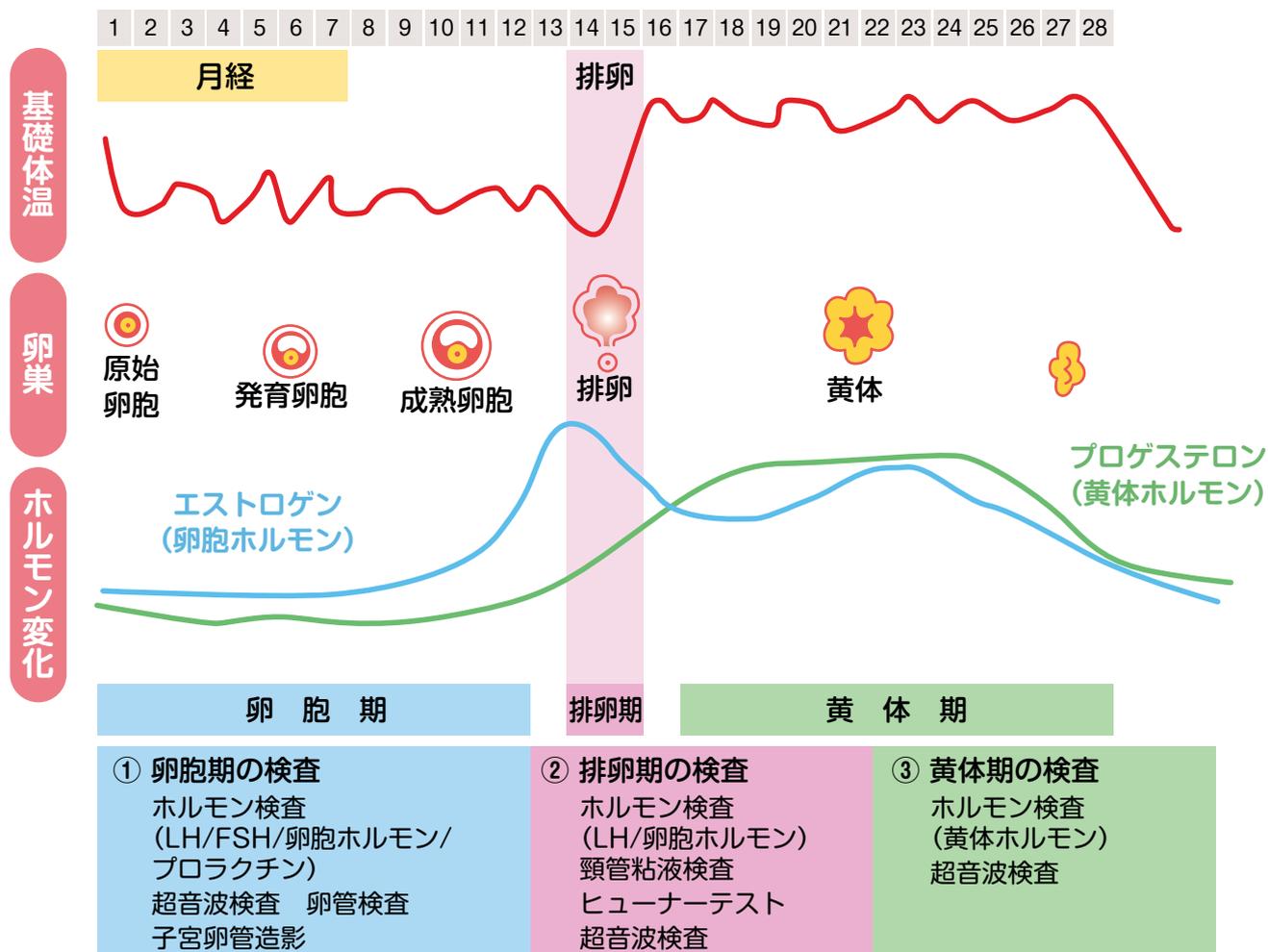
ご夫婦でよく相談をしながら、お互いの体をいたわりつつ、今後のすすめ方について考えていきましょう。

◎妊娠に関する女性のホルモンと検査時期との関係

- ◆女性ホルモンは月経周期に合わせて分泌されているので、その時期に合わせた検査を行います。
- ◆基礎体温をつけることで、ホルモンの分泌の状態がわかります。

- ◆体の周期によらず、いつでもできる検査もあります。

問診・内診・超音波・クラミジア抗原抗体検査・性病検査・子宮がん（頸がん・体がん）・基礎体温・抗精子抗体検査



◎妊娠出産に向けた不妊治療のステップ

～第1段階～ 自分たちでできるトライ

まず基礎体温を 2～3 ヶ月記録して、基礎体温やおりもの様子で排卵を予測し性交渉をもってみましょう。排卵日の 2 日前から排卵直後までが妊娠しやすいと言われています。

基礎体温は体温が上昇する直前、おりものは粘性が下がって透明になり量が増えるのが排卵の兆候です。薬局で排卵検査薬を購入して使用することもできます。

～第2段階～ タイミング療法

医療機関では超音波検査やホルモン検査などを行い、排卵日を予測し排卵の

タイミングに合わせて、性交渉をもつ日にちの指導を受けます。

～第3段階～ 人工授精

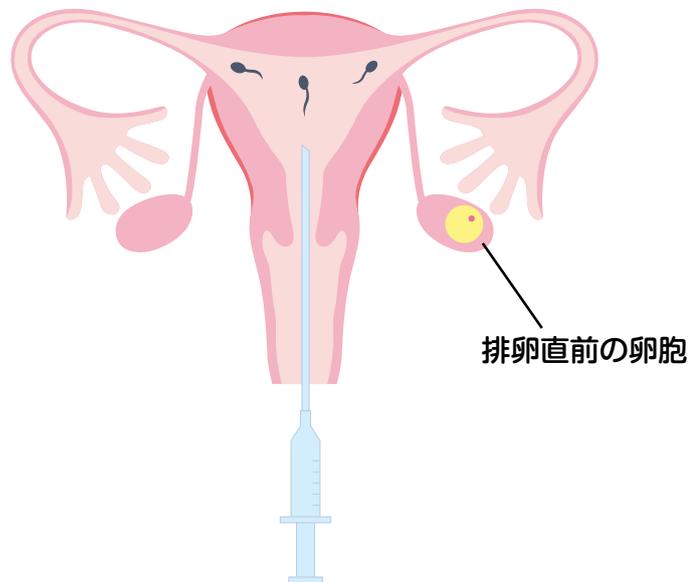
排卵のタイミングに合わせて、洗浄・濃縮された精子を専用のカテーテルを用いて子宮内に届け、自然な妊娠を期待する治療法です。

原因不明の不妊症のご夫婦や、性交障がい、パートナーが**ぼうせいししょう**（乏精子症）、精子無力症などの場合に行われます。

一般的な人工授精の流れ

- 1 排卵日の予測をします。
基礎体温、**けいかんねんえき**（頸管粘液）、超音波検査、ホルモンの値を参考にして排卵日を予測します。排卵誘発剤（飲み薬・注射）を使って卵子を育てることもあります。
- 2 女性の排卵日に合わせて、パートナーの精子を採取します。
- 3 精子の処置（洗浄・濃縮）をします。
- 4 カテーテルを使用して、子宮内に精子を入れます。

人工授精



～第4段階～ 生殖補助医療（体外受精・顕微授精）

第3段階までに妊娠が成立しなかった場合、または両側の卵管が閉塞してい

る場合や、精子が極端に少ない場合に行う治療法です。

◆体外受精

排卵前の卵子を取り出し、体外で卵子に精子をふりかけ受精させ、受精卵を再度子宮内に戻す治療法です。

◆けんびじゅせい顕微授精

体外受精では受精する見込が少ない場合（精子の数が少ない時など）に、ひとつの精子を卵子に直接注入する治療法です。

●●●●●●●●●● 一般的な体外受精・顕微授精の流れ ●●●●●●●●●●

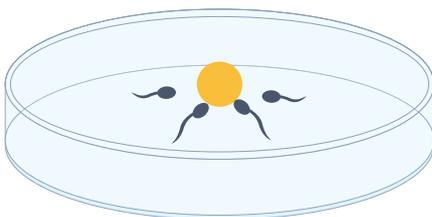
- 1 排卵誘発剤を使って卵巣を刺激し、複数の卵胞を育てます。
ちつへき 腔壁から卵胞を刺して、卵胞液とともに卵子を吸引して採取します。

採卵手術

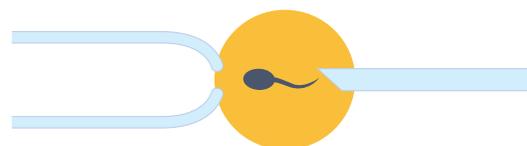


- 2 同じタイミングで、精子を採取します。
- 3 体外受精は卵子に精子をふりかけ、受精させます。顕微授精は顕微鏡下で直接精子を卵細胞質へ注入し、受精させます。

体外受精

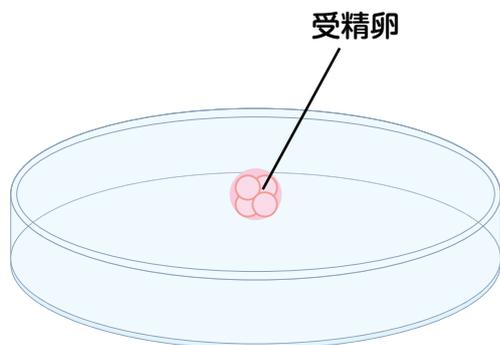


顕微授精

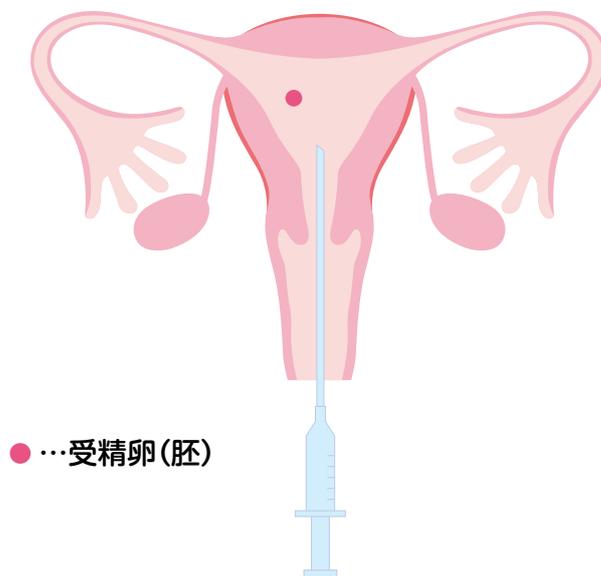


- 4 培養液の中で受精卵を育てます（培養）。
- 5 カテーテルを用いて、育った受精卵を子宮内に戻します（胚移植）。
受精卵が着床しやすいように、黄体ホルモンを補充します。

培養



胚移植



- 6 胚移植から約2週間後に、妊娠判定をします。

風疹の抗体をつけましょう

風疹にかかる方は、かつてはとても少ない状況でしたが、ここ数年は、海外からの帰国後の発病等、風疹患者が散見される状況にあります。風疹は、妊娠初期の女性が感染すると、障害を持つ赤ちゃんが生まれてくる可能性が高くなります。先天性風疹症候群といいます。

自分のため、周りのため、新しい命を守るために、風疹の予防接種を受けたことがない方は、ぜひご夫婦で予防接種を受けましょう。風疹の予防接種をうけることによって、95%以上の方が風疹の免疫をつけることができると言われています。

風疹の予防接種や抗体検査を希望される場合は、**横浜市ホームページ**

(**横浜市風しん対策** で **検索**) をご確認ください。 **予防接種コールセンター**
(☎045-330-8561、平日9時～17時) にお問い合わせください。

発行 横浜市こども青少年局こども家庭課 令和3年2月発行
住所 横浜市中区本町6丁目50番地の10 電話番号 045-671-2455

監修 横浜市立大学附属市民総合医療センター 生殖医療センター担当部長 村瀬 真理子先生
横浜市立大学附属市民総合医療センター 不妊症看護認定看護師 星るり子